

災害後の飲酒に関するエビデンス

世界では毎年 500 を超える災害が発生しており、災害によって 7 万 4 千人が重症を負い、5 万人が殺されています。このような多くの災害の経験から災害が被災者に身体面、精神面の健康に対して強い影響を及ぼし、その程度は軽症で一時的なものから重症で慢性的なものまでさまざまであることがわかっています。

最も一般的な災害後の精神面の健康問題にはうつ病、心的外傷後ストレス障害 (PTSD)、不安障害、飲酒や薬物乱用、家庭内および対人暴力が知られています。

被災者の災害への反応はその人の年齢、性別、所得、教育等の人口統計的要素や被災者の問題対処能力や被災する前の精神面を含めた健康状態、社会的サポートの有無、災害時の出来事やその後の経験など多くの要因に影響されます。災害時の経験としては、痛みや死の恐怖、死体やグロテスクな場面の目撃、家族との離別、家・財産の喪失などは被災後の生活への適応を困難にする要因となります。一方、災害前の出来事も災害後の健康状態に影響し、過去の外傷体験は PTSD を発生しやすくします。また、被災する前 1 年間のそれ程強くない生活上のストレス（経済的、家庭内の問題等）も被災後の健康状態に影響します。

さまざまな災害時の調査から災害と飲酒については、以下のようなエビデンスが得られています。

1. 災害後、地域の飲酒量は全体的に増加します。
2. 災害前から飲酒問題をもっていた人は災害後に飲酒問題が悪化します。
3. 災害前に飲酒問題のなかった人に、災害により飲酒問題が新たに発生するかどうかについては、結論が得られていません。

いずれにしても被災者の精神的健康状態は災害発生から 1 年またはそれ以上の間、注意深くモニターすることが必要です。また、そのためにはスクリーニングテストを用いて誰が援助を必要としているか効率的で正確に把握し、早期に介入することが必要です。

ここでは、アルコール問題のスクリーニングテストを紹介し、事例を把握して早期に介入する一助となる情報を提供します。

主な文献

- 1) Keyes KM, Hatzenbuehler ML, Hasin DS. Stressful life experiences, alcohol consumption, and alcohol use disorders: the epidemiologic evidence for four main types of stressors. *Psychopharmacology*, in press.
- 2) North CS, Ringwalt CL, Downs D et al. Postdisaster course of alcohol use disorders in systematically studied survivors of 10 disasters. *Arch Gen Psychiatry* 68: 173-180, 2011.